



ブネイ・メナ シエへの支援



「慰めよ、慰めよ、わたしの民を。――
――あなたがたの神は仰せられる――」
イザヤ書40章1節

襲撃されたブネイ・メナシェ族への支援

インド



エイブ・ウーメン
Abe Oommen
インド
国際理事

2700年以上前に、アッシリア帝国は、イスラエルの12部族のうちの10部族を追放しました。国々に散らされた彼らは、平和に過ごせる場所を求めて行きました。その一つの部族は、メナシェ族です。

2700年以上前に、アッシリア帝国は、イスラエルの12部族のうちの10部族を追放しました。国々に散らされた彼らは、平和に過ごせる場所を求めて行きました。その一つの部族は、メナシェ族です。

メナシェ族は中央アジアと極東アジアを何世紀もの間放浪して、最後にミャンマーとバングラデッシュの国境近くにある、現在はインドの北東にある州であるマニプル州とミゾラム州に定住しました。今日では、ブネイ・メナシェ族には、4500人以上のユダヤ人がこれらの二つの州に住んでいます。

彼らのほとんどは、マニプル州内の小さくて埃っぽい町であるチュラチャンドプルに住んでいます。そこには、ブネイ・メナシェ評議会の本部があります。シャベイ・イスラエルの団体が、そこに吸収センターを配置して、アリヤーのための準備や便宜を図っています。

何世代にも渡って放浪し、イスラエルから離れていたにもかかわらず、ブネイ・メナシェは決して自分たちが誰なのかを忘れてはいませんでした。また、自分たちが住んでいる民族やコミュニティの中にあっても、アイデンティティ

ィーを失ってはいなかったのです。彼らはユダヤ教を信じ、安息日や食物規定を守り、ユダヤ教の祭りを祝い、心の深い部分で、いつの日か愛するイスラエルの地へ戻ることを願い続けてきたのです。

2013年以来、エベネゼル出エジプト作戦は、シャベイ・イスラエルとともに協力して、ブネイ・メナシェ族の人々がイスラエルの地へ帰還する支援をしてきました。ブネイ・メナシェのアリヤーは、神様の忠実さの最も偉大な働きの一つと言えるでしょう。神様は、預言者ネヘミヤを通して語られました。「・・・たとえ、あなたがたのうちの散らされた者が天の果てにいても、わたしは彼らをそこから集め、わたしの名を住まわせるためにわたしが選んだ場所に連れて来る。」(ネヘミヤ書1章9節)

今年の5月の初めに、マニプル州に住むクキ族とメイテイ族との間に民族紛争が、前触れもなしに起こりました。5月3日に民族団結の行進がありました。それは、メイテイ族が支配する州政府が、クキ族とナガ族から土地所有権を奪う計画に対する反対行動でした。一旦彼らの家が州政府の権威下に置かれるようになると、メイテイ族が丘にあるクキ族の家を支配することができるようになりますのです。クキ族の平和的な行進の中で、彼らはメイテイ族に激しく攻撃を受けました。なぜなら、彼らの大部分がその地域の中央の丘に住んでいたからです。

写真： この会堂のメンバーのみなさんは、遠方から支援に行った私たちにとっても感謝していました。





100人以上のクキ族の人々が殺され、負傷者も多く出ました。多くの家々が攻撃を受け、略奪されたり燃やされました。生き残った人々は何もかも残して逃げました。2000以上の家が破壊されました。

ブネイ・メナシェ族の人々はクキ族なので、彼らもまた攻撃的でした。彼らは今も危険の中にあります。彼らの多くは家や持ち物を失い、彼らの会堂のほとんどが攻撃を受けました。

このような恐ろしい出来事が起こっている中で、エベネゼル出エジプト大作戦のインド支部は、シャペイ・イスラエルから電話やメッセージを受け始めました。それは、被害者たちのための食物や基本的な物資の支援を緊急に要請するものでした。直ちに、私たちはミゾラムにある難民キャンプにいる人々に支援物資を運ぶ計画を立てました。そこに、マニプル州から多くの人々が避難していたのです。ミゾラムにも小さなブネイ・メナシェ族のコミュニティがありました。

私たちは1トン分の食料を手に入れ、それらを数日の間にミゾラムにいる150以上の家族に届けました。また、9トンの食糧が、マニプル州にあるチュラチャンドブルのブネイ・メナシェ族の会堂に届けられました。そして、550の困窮した家族に配布されたのです。

6月1日に私たちはミゾラム州の州都アイザウルに行きました。そして、そこでブネイ・メナシェ族のコミュニティーリーダーに会うことができました。会長のエレミヤと書記長のアズリエルは、私たちを歓迎してくださり、状況を説明してくださいました。私たちはまた、マニプル州から逃げてきて、アイザウルの会堂の敷地に避難生活をしている家族とも話すことができました。彼らにとって、私たちの訪問は大きな励ましとなったようです。また、インドの南部にいるクリスチャンが遠くから彼らを支援に來たことにとても感動しているようでした。

神様にすべての栄光と賛美をおさげします。神様は、インドだけでなく世界中のエベネゼル支援者を、ご自身の手として足として用いてくださっています。神様は御使いの軍勢を遣わしてくださり、困窮した地域にいる人々に食料を運ぶ人々を守ってくださいているのです。

どうか、インドのブネイ・メナシェ族の人々が守られ、アリヤーすることができるようにお祈りください。私たちは、彼らの大勢がもうすぐイスラエルに到着することを願っています。



奇跡、記憶、そしてアリヤー

イスラエル・国際



ダニエル・モル
Danielle Mor
ユダヤ機関の
クリスチャンの友
ディレクター

75年間の奇跡です。理解しがたいことですが、イスラエルは数か月前に独立75周年を祝いました。これは本当に奇跡です。

イスラエルのユダヤ機関（イスラエル国家が創設した団体）で仕えながら、私は、このような時代に生かされていることの幸いを感謝しています。なぜなら、この時代は、三つの中心的概念で表される時代だからです。それは、奇跡、記憶、そしてアリヤーです。

イスラエル国家は、2000年もの放浪の後、そしてホロコーストのほんの3年後に建てられました。ホロコーストは、ユダヤ人を全滅させようとするものでした。この事実は、私たちの時代において明らかに奇跡です。預言者はこうたずねます。「国は一瞬にして生まれるだろうか。」（イザヤ書66章8節）それに対して世界中の人は、「はい、そうです。」と答えるでしょう。

奇跡と創造は神様のみわざです。しかし多くの働きは人々に任されています。そしてイスラエルのユダヤ機関はその働きを担っているのです。ディビッド・ベン・グリオン、ゴルダ・メイア、ハイム・ウェイツマンなどの過去のリーダーたちが主に集中していたのは、アリヤーの働きでした。

アリヤーは美しいことばです。このことばは、上って会う、という行動を表しています。それは神様に近づくためです。これは昔も今も変わらないもので、信仰の行為であり、「記憶」

という言葉から派生していることばです。記憶は私たちの前を通り過ぎていきます。聖なる宮の時代から、何世紀にも渡る祈り、そして嘆きと切望、そして遂にイスラエルの奇跡が起こって以来は、実際にも霊的にもイスラエルの地へ帰還することが可能になりました。2000年の放浪の後、何世紀にも渡って散らされたユダヤ人たちを支えてきた記憶があり、そして今は彼らの故郷であり約束の地を、アリヤーする時に実際に見ることができるようになったのです。

多くのチャレンジがあることを、私たちは知っています。イスラエル建国後、初めの2年は50万人以上のユダヤ人がアリヤーして、イスラエルの人口は2倍に増えました。当時のチャレンジは基本的なものでした。戦争を生き延びること、食べ物や衣服を得ること、また新しいオリムのための家を提供することなど。私の祖母はイランからアリヤーしましたが、最初の1年はテント生活をし、次の2年は小屋で生活しました。その後になってやっと普通の家に住むことができるようになったのです。

今や350万人ものユダヤ人が100か国以上の国々から帰還し、40以上もの言語を話すのです。これは、気の遠くなるような働きではないでしょうか？しかし、聖書は明確に私たちに伝えています。「恐れるな。わたしがあなたとともにいるからだ。わたしは東からあなたの子孫を来させ、西からあなたを集める。」（イザヤ書43章5-6節）



写真：上：新しいオリム
のためのウルパン（ヘブ
ライ語学校）の授業



私たちは、現在多くの勇気を必要としています。ウクライナの戦争はまだ勢いが衰えていません。ですから、人々は救助を必要としています。またこの戦争はこの地域全体に津波のような影響をもたらしています。2022年には74915人のオリムが帰還しました。それは、この22年間の間で最高記録です！アリヤーをする一人一人に、優しさ、励まし、慰めが必要です。彼らが故郷の地で新しい生活を始め本当にそこで定住することができるためにです。

悲劇と困難の中で、また記憶が残る中、このような奇跡を認めることによって、私たちはこの激動の時代を生きていくための勇気を受け取っています。

記憶というのは鍵となる概念です。実際、ユダヤ教の中心的な教えでもあります。私たちは出エジプトや安息日や試練や艱難を覚えてるように命じられています。そして、ただ覚えているだけでなく、このことを子供や、コミュニティや世界に伝えるように命じられているのです。

私たちがこのようなことを覚えているように命じられているのは、私たちが信仰を持ち、励ましを受け、私たちの働きが何か、そして役割は何かを知ることができるようになるためです。ですから、私たちが、奇跡とひどい悲劇に同時に直面しても、絶望するのではなく、むしろ記憶を越えて行動していかなければならない、と知るのです。それは、奇跡に沿って働いていくことを意味します。それはちょうど、イ

スラエル国家が建てられた時に人々がしていたのと同じです。行動の人になるということは、アリヤーの働きを進めていくことを意味します。

ウクライナでの戦争が一年以上続いています。多くの悲劇、奇跡、記憶、アリヤーが起こっています。84歳のホロコースト生存者であるリタは、ポーランドへの国境を渡る時に、孤独で、混乱し怯えていました。私たちは何千人もの難民の中から彼女を見つけ、彼女の帰還を助けました。そして彼女は、イスラエルで彼女の娘と孫たちに合流することができました。私たちはこのような働きを、献身的なボランティアたちとともに、（その多くはエベネゼルのボランティアです）行いました。彼らもまた、奇跡、記憶、そしてアリヤーを信じていたので、私たちとともにいたのです。

イスラエル国家が、独立75周年を迎えたことを決して当然のことと思わないようにしたいものです。クリスチャンもユダヤ人もともに、この国の土台について考えてみましょう。私たちはアリヤーの歴史的な使命を大切に、オリムをイスラエル社会に繋げて、彼らがこの国を栄えさせ、この国の力となり、将来を担っていくことを願っております。この働きをしながら、私たちは奇跡を認め、記憶を保ち、アリヤーに向かって動いていきます。そしてこのことを、私たちの心をあわせ一致することを通して続けていくのです。

用語解説

アリヤー(Aliyah):

ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。

ユダヤ機関 (Jewish Agency):

ユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム(Olim):

イスラエルに帰還するユダヤ人



コスタリカからの最初の実

コスタリカ



ウォルター・ベガ
Walter Vega
コスタリカコーディネーター

アリヤーの働きは、私がエベネゼルコスタリカ代表となり、グスタボ・アクーニャが副代表となって、昨年11月に私たちの国において発足しました。その後6か月に渡り、私たちは国中のクリスチャンの集まりを訪れ、イスラエルの回復と神のユダヤ人への愛、そして、神がユダヤ人たちを先祖の地へ帰還するよう召しておられることなどについて分かち合いました。

私たちはコスタリカの中心的な会堂を訪れ、またサンホセにあるイスラエル大使館に、エベネゼルミニストリー代表者として訪れました。エベネゼルメキシコのシルビア・カルバジャル牧師と、エベネゼルグアテマラのフレディー&エステリタ・バツ牧師も同伴してくださいました。イスラエル大使館の代表の方が私たちを迎えてくださり、私たちの言葉にとっても心動かされていました。彼女は、私たちが世界の多くの国々でこの働きをしていることに感謝してくださいました。彼女が一番感謝されていたのは、クリスチャンの信者がイスラエルとユダヤ人のためにとりなしていると知ったことでした。

私は今年の4月にアメリカサミット会議に参加し、大会での教えのすべてを録音していました。家に帰ってから、私は学んだことをすべて分かち合うことに決めました。それで、イスラエル大使館の代表者の要請に従って、私はイスラエル大使館を訪問したのです。彼らは、エ



ベネゼルがオリムの家族に対してしている支援についてもっと知りたいということでした。そしてその日、重要な関係が結ばれました。彼女は、イスラエル大使館は、コスタリカに住む多くのオリムの家族を支援するために、どのような協力ができるかを申し出てくださったのです。

このことを通して、6月にアリヤーの最初の実が結ばれました。最初の家族とのコンタクトは、コロンビア人のオリムを通してでした。彼らは、ビザとスーツケースの支援をエベネゼルに求めてきました。そしてもうすぐイスラエルに飛び立つところでした。イスラエル大使館の代表者の方は、エベネゼルが彼らを支援したことをとても喜んでおられました。二つ目の家族は、すでにアリヤーしています。

このことは、中央アメリカにおいてアリヤーの働きのために主がなされている祝福です。

写真 右:コスタリカからの帰還を支援した二つの家族



オーストリアでの突破

神様がユダヤ人への忠実さを保って下さり、アリヤーを通してご自身の栄光を現わしてくださり、また私たちが神様の救いの大いなる計画の一部として招かれているのを見ることができ、これは私たちにとって大きな特権です。

「ヤコブよ、これらのことを心に留めよ。イスラエルよ、あなたはわたしのしもべ。わたしがあなたを形造った。あなたは、わたし自身のしもべだ。イスラエルよ、あなたはわたしに忘れられない。……天よ、喜び歌え。【主】がこれを成し遂げられたから。地の底よ、喜び叫べ。山々よ、喜びの歌声をあげよ。林と、そのすべての木々も。【主】がヤコブを贖い、イスラエルのうちに栄光を現されたからだ。」イザヤ書44章21節～23節

私達が感謝している事は、オーストリアが、その恥ずべきひどい過去にも関わらず、神様の御計画の一部とされることが許され、神様がユダヤ人を祝福するために今後私たちを用いたいと願っておられることです。近年私たちは、神様の忠実さを経験することができています。そして、「【主】はエルサレムを建てイスラエルの散らされた者たちを集められる。」のを見ることができています。(詩編147篇2節) 主は10年以上に渡ってエ

ベネゼル出エジプト大作戦オーストリアを支えてくださっています。私たちは、祈りにおいても経済的な面においてもささげくださる皆さまに心から感謝しています。

長年に渡る忠実な祈りを通して、主は驚くべき方法で祈りに答えてくださっています。

2021年には、私たちはオーストリアからの最初のアリヤーを支援することができました。また、多くの教会へ扉が開けられました。神様は南チロルを始め国の多くの地域において繋がりを与えてくださいました。また、主はある牧師の心にふれてくださいました。彼は以前はイスラエルやアリヤーの働きに敵意を持っていましたが、今では今後の活動に対して支援をすることを約束してくれています。

祈り



チー・ホー
& ガブリエラ・フィンク
Chi•Ho & Gabriela•Fink

どうかお祈りください

- ・オーストリアのキリストのからだのために
- ・神様が若い世代の人々をアリヤーの働きに召してくださいように
- ・ユダヤ人コミュニティのために。特にウィーンのコミュニティのために
- ・私たちの国でより強い祈りのネットワークが建て上げられるように

EBENEZER INTERNATIONAL CONFERENCE

Jerusalem 17-22 November 2024

Light in the Darkness

ISAIAH 60:1-2

BOOKING INFORMATION

www.ebenezer-oe.org/events



EBENEZER
OPERATION EXODUS

クララのマットレス

イスラエル



コリン・ロス
Colin Ross
イスラエルチーム

「なぜあなたはイスラエルに来て、具合が悪くなるのですか？」

私たちは携帯電話のグーグル翻訳を使いながらゆっくりとコミュニケーションしました。でも、クララのかわいそうな状況を理解するのは問題ではありませんでした。

彼女は50代の女性で離婚しています。アルゼンチンから単身でイスラエルに帰還しました。そして今はこの状態です！たくさんの薬が処方されてしまい、仕事もできない状態でした。薬代もかなりかかります。彼女はやっとイスラエルの生活保護を受けることができるようになりましたが、それでも支給されるのは何か月後のことです。

絶望した状態で、彼女は南アメリカのエベネゼルにコンタクトを取りました。そして彼らを通じて、私たちから彼女へ支援できないか、



写真： マットレスの新しい配達方法

という要請が来たのです。彼女が言うには、彼女が本当に必要だったのは、ベッドのマットレスだったそうです。

それで、私たちは直ちに、マットレスを提供することを伝えました。聞いてみると、彼女はテル・アビブに住んでいて、私の息子ディビッドと義理の娘トリの家から歩いて5分のところに住んでいることがわかりました。それで私はクララに会いに行き、彼女が近くで見つけたというマットレスを購入しました。

配達に興味深いものでした。ダブルベッドのマットレスが、アフリカ系の移民の頭の上に乘せられて配達されたのです。クララの建物にはエレベーターがありました。

これで仕事が終わりました。クララの子承を得て、彼女のために祈り、そこを出ました。私たちは互いに出会いを喜ぶことができました。

先日ディビッドとトリの家に立ち寄りしました。トリはスペイン語を話します。支援をしたいという気持ちがあるようです。クララには彼女の電話番号も渡してあります。ですから、近いうちに彼女たちは連絡を取り合うかもしれません。

イスラエルに帰還したクララや、その他のオリムたちのためにどうかお祈りください。彼らがイスラエルにしっかりと植えられるように！



Operation Exodus
Ebenezer Operation Exodus
International & UK Office
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org



Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster NY 14086
Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org

Operation Exodus



エベネゼル緊急基金日本支部

〒062-8691 豊平郵便局私書箱 37 号
Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)
paginamaestro@hotmail.com
http://eefj.org
郵便振替 (名称) エベネゼル緊急基金
(番号) 02710-0-55842

Operation Exodus (出エジプト作戦) はエベネゼル緊急基金の実践的な働き者の名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく 1991 年に 3 人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた 25 カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実践的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。